

科目名 (英)	運動学Ⅱ Kinematics II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
【授業の学習内容】 運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学習した身体の正常な動作を作り出す筋・関節などの知識をベースに診察、施術に活用できる知識と技術について学習する。 1. 姿勢・身体アライメント計測 2. 関節可動域測定の目的と意義およびその測定法 3. 徒手筋力検査の目的と意義およびその検査法 4. 上肢の徒手筋力検査 5. 下肢の徒手筋力検査 6. 筋タイトネスの検査測定方法							
【到達目標】 ①動作観察より障害されている機能を推測できる。②MMTについて説明できる。③運動療法(ストレッチ)について適切に行うことができる。							

授業計画・内容	
1回目	基本肢位とは 運動の面と軸 姿勢をチェックする際の解剖学的な指標(ランドマーク) 静的姿勢を観察することができる。姿勢を評価するときの基準となる標準姿勢やの目的と意義およびその計測方法について説明できる。
2回目	関節可動域測定の目的と意義(意義、目的、関節可動域の制限因子)について説明できる。関節可動域の測定法(測定上の留意点、最終域感 end feel、測定結果の表示法、測定の手順)について説明できる。
3回目	関節可動域測定 頸部、胸腰部、肩の基本軸、移動軸の説明ができ、代償運動に注意し測定が行うことができる。
4回目	関節可動域測定 肩甲帯、肘、前腕、手の基本軸、移動軸の説明ができ、代償運動に注意し測定が行うことができる。
5回目	関節可動域測定 股関節、膝、足関節の基本軸、移動軸の説明ができ、代償運動に注意し測定が行うことができる。
6回目	関節可動域測定 中間テスト1
7回目	筋の収縮様式(求心性収縮、遠心性収縮、静止性収縮、等尺性収縮、等張性収縮の違い)について説明できる。
8回目	徒手筋力検査の目的と意義(適用と検査の視点、判定基準、検査上の留意点、全体的な検査の手順、検査結果の解釈)について説明できる。
9回目	上肢の徒手筋力検査 肩甲骨・肩関節・肘関節の動作方向において筋の起始停止部走行を意識でき、代償運動に注意を払い検査を行うことができる。検査肢位、主動作筋、抵抗部位について説明できる。
10回目	下肢の徒手筋力検査 股関節・膝関節・足関節・足の動作方向において筋の起始停止部走行を意識でき、代償運動に注意を払い検査を行うことができる。検査肢位、主動作筋、抵抗部位について説明できる。
11回目	関節可動域測定 中間テスト2
12回目	筋タイトネス検査の目的と意義、測定方法についての説明ができ、FFD、Ely test、Ober test、Thomas test(変法含む)、SLRその他が行うことができる。
13回目	徒手筋力検査 中間テスト1
14回目	徒手筋力検査 中間テスト1
15回目	筋タイトネス検査 中間試験
準備学習 時間外学習	準備学習 解剖学や運動学Ⅰで学習した人体構造のうち関節構造、筋の起始停止および作用について事前に学習すること。 時間外学習 徒手検査は慣れが必要なため本演習の授業で学習した内容を再度、各自で練習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能、 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK	